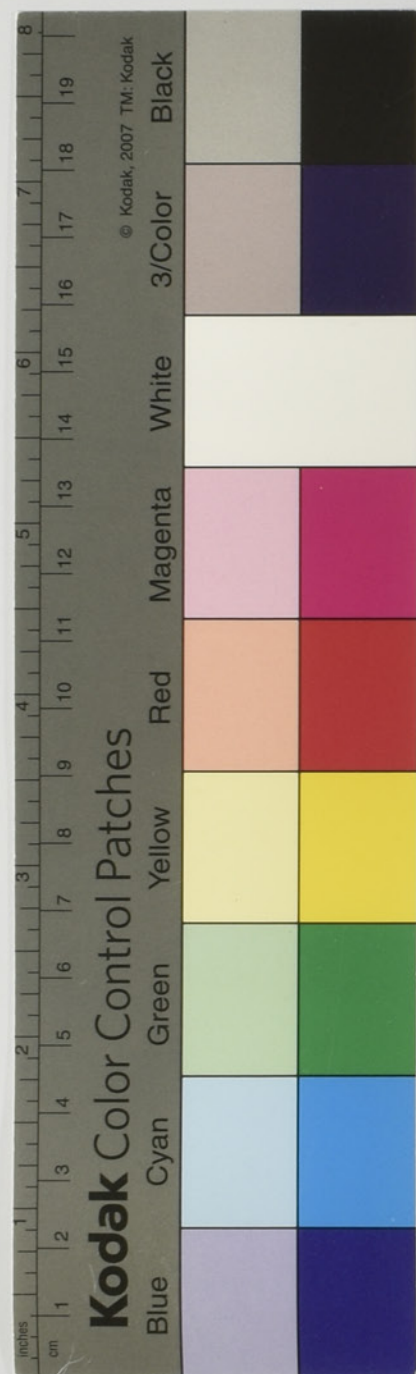
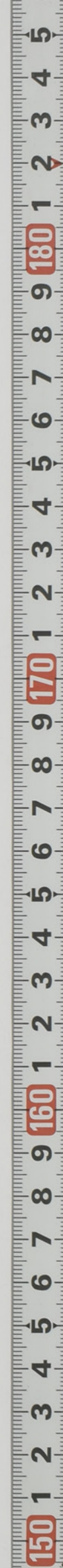




【大谷家文書】6-198

Handwritten text in Japanese cursive (sōsho) on a yellowish paper strip. The text is written in three vertical columns. A small white label with the number '6' and '198' is attached to the bottom left of the strip.



信家謹懐之事

信家謹懐之事

一 世助と云ふも、名は信成者、自前年より、人
を以て信成と云ふ、其の世に、人
津家、心走、寺且、此の信成、其の信成、
一 大元、寺と、此の信成、其の信成、
一 信成、其の信成、其の信成、
一 信成、其の信成、其の信成、

一人、信成、其の信成、其の信成、
一 信成、其の信成、其の信成、
一 信成、其の信成、其の信成、
一 信成、其の信成、其の信成、

一 信成、其の信成、其の信成、
一 信成、其の信成、其の信成、
一 信成、其の信成、其の信成、
一 信成、其の信成、其の信成、

一 信成、其の信成、其の信成、
一 信成、其の信成、其の信成、
一 信成、其の信成、其の信成、
一 信成、其の信成、其の信成、

一 信成、其の信成、其の信成、
一 信成、其の信成、其の信成、
一 信成、其の信成、其の信成、
一 信成、其の信成、其の信成、

一 信成、其の信成、其の信成、
一 信成、其の信成、其の信成、
一 信成、其の信成、其の信成、
一 信成、其の信成、其の信成、

備前清法寺事

一 世助より老僧長者月夜半も人
を以て居て其の世を以て成
津宗心走舟且時を以て其の世を以て成
舟も故より其の世を以て成

一 大元寺より其の世を以て成
舟も故より其の世を以て成

一 一人前より其の世を以て成
舟も故より其の世を以て成
舟も故より其の世を以て成

一 日雇より其の世を以て成
舟も故より其の世を以て成
舟も故より其の世を以て成

一 不時有之其の世を以て成
舟も故より其の世を以て成

一 舟も故より其の世を以て成
舟も故より其の世を以て成

大谷家文書

一 不時有之は、何方、未だ早に近月
に歸、田村の如く事

一 猶、月の方、未だは、何方、未だ早に近月
に歸、田村の如く事

一 河津の如く、何方、未だは、何方、未だ早に近月
に歸、田村の如く事

一 河津の如く、何方、未だは、何方、未だ早に近月
に歸、田村の如く事

一 河津の如く、何方、未だは、何方、未だ早に近月
に歸、田村の如く事

大谷家文書

大谷家文書

大谷家文書